

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成27年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ④観光分野(1/6)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
九州アジア観光アイランド総合特区(福岡県等)	正	4.5	4.7 <u>進捗度</u> ・アジアを中心とした九州への入国外国人人数 173% ・九州における年間観光消費額 92% ・九州への外国クルーズ客船の延べ寄港数・延べ寄港者数 269%	4.2 <u>規制の特例等</u> ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業  <u>地域独自の取組</u> ・九州観光推進機構の一般社団法人化等	4.5	<p>・特区ガイドの獲得や養成の成果を生かした展開は、他地域への再現性もあり高く評価できる。また、スキルアップセミナーやマッチング会の開催等のガイドのフォローや稼働率を上げるための取組も行われており、努力と成果がうかがえる。</p> <p>・クルーズ誘致・利用に関してもきわめて順調であるが、九州各港湾への寄港促進、そのためのプロモーションの更なる展開、クルーズ船の大型化に対応した港湾整備と大型船が入った場合のツアーバス対応など受入体制の整備等に注力し、今後の訪日観光客のリピーター対策など、持続的な観光誘客につながる、九州ならではの観光コンテンツの磨き上げと編集を急ぐ必要がある。</p> <p>・本特区の取組について、評価指標では把握できないため、事業の成果を適切に評価する指標を設定すべきである。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)